

2016年9月27日

プジョー 208 R2、全日本ラリー選手権第7戦で優勝！
 ～ シーズン最長の天王山を完勝で飾り、タイトルに王手をかける ～

プジョー 208 をベースとしたラリー専用車「208 R2」が、2016年全日本ラリー選手権第7戦「RALLY HOKKAIDO」に参戦しました。208 R2 は総走行距離が 230km を超えるシーズン最長のラリーを走り切り、今季 4 勝目を果たしました。この結果、208 R2 の柳澤宏至選手は JN5 クラス・ドライバーランキング首位の座を守り、タイトル決定に王手をかけました。

第7戦は十勝・帯広エリアの高速グラベル(未舗装路)を舞台に、9月23日(金)～25日(日)の日程で開催されました。プジョー 208 R2 で JN5 クラスを戦う「ラリープラス・クスコレーシング・ラリーチーム」の柳澤宏至選手は、雨を含み滑りやすくなった路面でも抜群のスピードを発揮。初日から安定した走りでトップとなり、2 日目も抜群の安定感を見せました。通常のポイントが 2 倍となるポイント係数 2.0 というラリーで、見事優勝を飾りました。シリーズランキングもトップをキープし、タイトル決定を目前としています。

プジョー 208 R2 ドライバーのコメント

柳澤宏至選手(ラリープラス・クスコレーシング・ラリーチーム) JN5 クラス 優勝

「ラリー北海道は非常にタフで、距離も長いラリーです。これだけ多くのマシンがリタイアするなか、しっかりと走り切れたことがまずはうれしいです。そして、それが優勝というかたちで締めくれたことも大きいですね。後続とはかなり差があったので、しっかりと集中力を切らさず走ることを心がけました。プジョー 208 R2 で高速グラベルステージを走行するのは今回が初めてでしたが、ヨーロッパのイベントで鍛え抜かれてきただけあって、まったく問題ありませんでした。あらためて、マシンの素性の良さを実感しました」

全日本ラリー選手権第7戦「RALLY HOKKAIDO」リザルト

クラス/クラス順位	ドライバー/コ・ドライバー	車両	合計タイム
JN5 / 1 位	柳澤宏至/中原祥雅	プジョー 208 R2	1:48:16.9
JN5 / 2 位	大倉聡/豊田耕司	トヨタ・ヴィッツ GRMN ターボ	1:52:00.9
JN5 / 3 位	大橋逸夫/藤上亘	MINI ジョン・クーパー・ワークス	2:22:53.8
リタイア	関根正人/小坂典嵩	シトロエン DS3 R3-MAX	—
リタイア	ヘイキ・コバライネン/北川紗衣	GT86 CS-R3	—



ラリープラス・クスコレーシング・ラリーチーム: 柳澤宏至選手(左)/中原祥雅選手(右)

MOTION & EMOTION

プジョー・シトロエン・ジャポン 広報室
 PEUGEOT CITROËN JAPON CO., LTD.



ラリープラス・クスコレーシング・ラリーチーム：柳澤宏至選手(中央左)／中原祥雅選手(中央右)

プジョー・シトロエン・ジャポンでは、2016 年全日本ラリー選手権参戦を通してプジョーのモータースポーツ活動を盛り上げるとともに、プジョー車全体のさらなる拡販を目指してまいります。

Press contacts

<http://www.peugeot.co.jp>

プジョー・シトロエン・ジャポン 広報室 英(はなぶさ) TEL:03-5468-1311 shinji.hanabusa@mpsa.com

一般からのお問い合わせ先：プジョーコール TEL:0120-840-240

リリースダウンロード：<http://press.peugeot.co.jp>

資料・画像ダウンロード：<http://press.peugeot.co.jp/permitted/document/>

PEUGEOT

顧客へのブランドのコミットメントは、爽快で情熱に満ちたドライビング、個性的なデザイン、そして妥協のない品質を示しています。これらの DNA は、プジョーの全てのモデルに注がれています。世界 160 カ国で 1 万を超える拠点を展開するプジョーは、2015 年世界販売において 4.6 %アップの 171 万台に達しました。プジョーは世界へ向けて多彩な商品をもつ確固たるトップブランドを目指し、緻密なデザイン、スピード、そしてエキサイティングなフィーリングを融合しています。1889 年に始まったブランドに息づく自動車の歴史は、本年ダカールラリーにおける 2008 DKR の勝利によって新たな栄誉を獲得いたしました。

MOTION & EMOTION

プジョー・シトロエン・ジャポン 広報室
PEUGEOT CITROËN JAPON CO., LTD.